

ご近所福祉推進チームの役割

1	支え合いマップを作って、ご近所内の福祉ニーズと資源の双方を掘り起こす この作業に社会福祉協議会や民生委員等の協力を求める
2	要援護者に対して誰がどのように関わっていて、関わりの欠けた部分はないか確認する 特定の個人だけでなく、ご近所全体で福祉に欠けている者を拾い出す
3	福祉ニーズの対処法を考え、特定の個人がやるべきこととご近所推進者自身が取り組むべきことと、上の圏域に支援を求めるべきことに振り分ける
4	本格的な事業にすべきものをご近所で取り組むか、上の圏域で取り組むかを振り分ける 一方で「事業」を細分化して、住民の手でできないか検討する
5	マップでご近所福祉推進者にふさわしい仲間を掘り起こし、推進体制を常に強化する できれば小ご近所単位に人材を発掘する
6	特に関わりが必要な要援護者に対しては、その隣人と一緒にケア会議を開く。 そこに関係者も引き入れる
7	要介護の人に対しても、簡単に施設入所・利用に傾くことなく、ご近所に住み続けたい人には、できる限り本人の希望に沿うように考える。そのために住民を説得する。
8	要介護や障害を持っていても、地域グループ（ふれあいや趣味、ボランティア活動など）に受け入れられるよう、仲介する
9	小ご近所（ないしは班・組）の中でも助け合いが行われるように、積極的に応援する そのために小ご近所ごとのリーダー（中型世話焼きさん）と連携する
10	関係機関、地域包括支援センターや事業所などと常に連絡を取って、要介護者の枠外のニーズへの対応などにも関わる。
11	ただ要援護者への関わりだけでなく、住みよいご近所づくりを目指して、課題を掘り起こし、行政や地元企業などとも一緒にその課題解決に踏み込む